

銃ヲ取ルヘシ單身國恩ニ報セント欲スル
 者日夜志ル、フアルフナシ而シテ無人嘗ノ三
 字ヲ聞ク毎ニ未夕嘗テ奮念燃エスレバアラ
 ヲナルナリ頃日之ヲ道路ニ聴ク内務省其官吏
 ヲ發シテ無人嘗ニ赴カシムルノ拳アリト此事
 若シ信ナラバ其船ニ陪シ其地ノ実景ヲ一目
 撃スルモ猶以テ聊カ昔年ノ宿志ヲ慰スルニ
 足ラシ典固ヨリ祿アリ旅費ノ如キハ自ラ之ヲ
 弁スルニ足ラシ然レ氏官ニ定員アツテ船ニ
 餘積ナシ無用ノ人ヲ載スルヲ或ハ能ハサルヲ
 アラシ果シテ然ラハ軌鞭擊拵ト雖モ典固ヨリ
 辞セズ役ヲ艦内ニ奉シテ趾一タビ其地ヲ臨ム
 フヲ得バ何ノ幸カ之ニ如カシ典聞ク西洋諸國
 請フテ兵タルモノアリ自ラ衣食ヲ給シテ官費
 ヲ仰カス以テ公事ニ服役シ其規則ヲ守ル英人
 之ヲ「ブラシテ」ト云フト船内無用ノ人ヲ載スル
 高典再拝典嚮キニ讚州多度津ノ知事タリ時ニ藩士
 ヲ誘導シテ兵ヲ練リ砲ヲ鑄自ラ先タナテ之ヲ
 勉勵セシメ以テ國家萬一ニ報セント希望セリ
 已ニシテ及復思考スルニ区々タル小藩假令



勅勵セシメ以テ國家萬一ニ報セント希望セリ
已ニシテ及復思考スルニ区々タル小藩假令
器ハ其利ヲ極メ兵ハ其精ヲ極ムト雖モ之ヲ
全國ニ比セバ蒼海ノ涓滴ニ過キス若夫國家
ノ杆槩ハ則チ大藩ノアルアリ我レカラ尽シテ
吾藩士トコ、ニ從事セシヨリハ寧口無人寫ヲ
開拓シテ 天皇ノ地ヲ炎風ノ境ニ開クニ
如カスト乃チ藩士ヲ集メテ之ニ諮詢ス應
スルモノ鮮カリキ典不肖遂ニ國家ノ為メ
ニナス所アラスシテ衆士ヲ率井テ職ヲ曠
フスルハ心ノ安ンズル所ニアラスコ、ニ於テ
明治四年正月知事ノ職ヲ辞シテ允許ヲ得タ
リ然レ氏朝恩仍舊ニ因テ家祿ヲ給フ典年
已ニ四十成スフアルフナケレ氏猶註ク馬ニ騎リ
テ能ハスレハ暫時「ブラリウンテ」此タルヲ得
ン「ヲ」願ハリ参議内務卿大久保公方今ノ
賢相所謂天下ノ民匹夫匹婦モ其志ヲ得ザ
ルヲ以テ已レカ任トナス実ニ其人ナリトキリ
典先生ニ謁スル日淺シト雖モ其片言隻語予

明治四年正月知事ノ職ヲ辞シテ允許ヲ得タ
リ然レ氏朝恩仍舊ニ因テ家祿ヲ給フ典年
已ニ四十成スフアルナケレ氏猶能ク馬ニ騎リ

ヲ能ハスレハ暫時「テ」ラリユンテ「ル」タルヲ得

ン「ヲ」願ヘリ参議内務卿大久保公方今ノ
賢相所謂天下ノ民匹夫匹婦モ其志ヲ得ザ
ルヲ以テ已レカ任トナス実ニ其人ナリトキリ

典先生ニ謁スル日淺シト雖モ其片言隻語予
カ意ヲ知ルニ似タリ先生モレ典カ此意ヲ諒
セハ願クハ公ノ閣下ニ報セヨ典悃願ノ至リニ堪エス

明治八年十一月十日 京極高典

近藤真琴先生 望下